

## アスペルガー障害患者の脳波研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/14719">http://hdl.handle.net/2297/14719</a>

学位授与番号	甲第 1753 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 22 日
氏 名	中谷 英夫
学位論文題目	アスペルガー障害患者の脳波研究

論文審査委員	主 査 教 授  越野 好文
	副 査 教 授  山田 正仁
	東田 陽博

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

アスペルガー障害 (Asperger's disorder, AS) は広汎性発達障害 (pervasive developmental disorder, PDD) の中に位置づけられている疾患であり、アメリカ精神医学会の精神疾患の分類と診断の手引き第4版 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, DSM-IV) では対人相互反応の障害や反復的で常同的な行動様式を有するが、認知の発達や言語発達に遅れがないものと定義されている。PDD の脳波研究は少なく、特に知的障害のない高機能自閉性障害や AS を対象とした研究はない。本研究では AS 患者の脳波の突発性異常波および背景活動について検討した。

金沢大学医学部附属病院神経科精神科を受診し、DSM-IV により AS と診断され脳波検査を受けた例の中から選ばれた、薬物を服用していない、12歳以上である、身体疾患および他の精神疾患を有さない、の条件を満たす AS 群と、年齢と性を一致させたボランティアの健常対照群とを比較した。脳波記録のうち、数回の開閉瞼と3分間の過呼吸賦活を含む基準電極導出記録および間歇光刺激を含む双極導出記録の約20分間の部分を判定の対象とした。 $\alpha$ 活動については出現量、周波数、振幅、分布、連続性および安定性を、 $\beta$ 活動、 $\theta$ 活動および $\delta$ 活動についてはそれぞれの出現量、さらに $\theta$ 活動の局在性、各賦活法に対する反応および突発性異常波の有無を検討した。また、18歳以上の場合は成人の判定基準に従い、18歳未満の場合は便宜的に作成した判定基準に従って総合判定をした。

23人の AS 患者が対象基準を満たし、対照群23人と比較し以下の結果が得られた。1. AS 群では $\theta$ 波の出現量が有意に多く、広汎性に出現していた。2. 過呼吸賦活にてビルドアップ出現までの時間が短い傾向にあり、また有意差はなかったがビッグビルドアップは AS 群のみに認められた。3. 突発性異常波は AS 群の1人だけにみられた。4.  $\alpha$ 波の諸性状、 $\beta$ 波および $\delta$ 波の出現量は両群に差がなかった。

AS 群で $\theta$ 波が多く広汎性に出現することは大脳皮質機能の脆弱性の存在を、そしてビルドアップ出現までの時間が短いことは過呼吸による二酸化炭素分圧の低下への過敏な反応性を示唆する。

本研究は脳波の視察所見から AS における脳機能異常の存在を示唆したものであり、AS の病態解明に貢献する学位授与に値する業績と評価された。